

飼料用米品種「北陸193号」の 特性と栽培法

来歴

「北陸193号」は、(独)中央農業総合研究センター北陸センターで、韓国品種から育成したインド型多収系統「上344」と、中国のインド型多収品種「桂朝2号」の交配後代から育成された極多収品種です。

用途

飼料米、加工原料用として、800kg/10a程度の高収量
新潟県ではバイオエタノール実証試験の原料米に採用

表1. 「北陸193号」の移植栽培における特性概要

形質	品種系統名	北陸193号		タカナリ		日本晴
		少肥	標肥	少肥	標肥	標肥
出穂期	(月・日)	8.24	8.24	8.21	8.22	8.20
成熟期	(月・日)	10.14	10.19	10.03	10.11	10.04
稈長	(cm)	87	88	73	78	95
穂長	(cm)	25.2	28.0	23.9	25.6	19.6
穂数	(本/m ²)	316	325	330	369	480
全重	(kg/a)	250	259	209	222	186
粗朶重	(kg/a)	98.4	104.6	93.0	100.0	75.4
粗玄米重	(kg/a)	77.4	85.6	72.8	80.8	61.6
同上比率	(%)	126	139	118	131	100
玄米千粒重	(g)	23.8	22.9	21.9	22.2	22.2
玄米品質	(0~9)	6.2	7.3	7.7	8.1	7.7
倒伏程度	(0~5)	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1
脱粒性		やや難		やや易		難



注1)調査年次:2008~2010年、調査場所:鳥取農試

注2)牛糞堆肥3t/10a施用、施肥はNkgで基肥-分けつ肥-穂肥 -穂肥 -出穂期

少肥:(4-4-0-0-4)、標肥:(7-3-3-3-3)

注3)倒伏程度;0(無)~5(甚)、玄米品質;1(上上)~9(下下)

「日本晴」と比較して

- ・晩熟、短強稈で全重大きい
- ・長穂で1穂朶数が多い
- ・収量は多く、肥料を増やすと、より増収する
- ・米粒は細長い

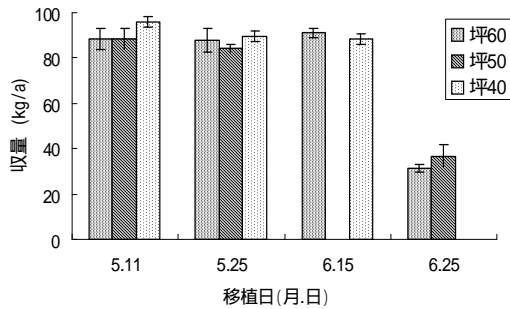


図1 作期、栽植密度と収量の関係

注1) 調査年次: 2009~2010年 調査場所: 鳥取農試
 注2) 5.11, 5.25移植は2年間のデータ
 6.15は2010年, 6.25は2009年データ

・6月中旬までの移植が可能
 ・6月下旬移植では成熟不能で収量は低収
 栽植密度は坪40株程度までの疎植が可能

(坪40株: 株間27cm, 坪50株: 株間22cm, 坪60株: 株間18cm)

直播栽培も可能

・耕起乾直では標肥栽培可能
 ・湛水直播は播種量同程度では
 条播で収量がやや多い傾向

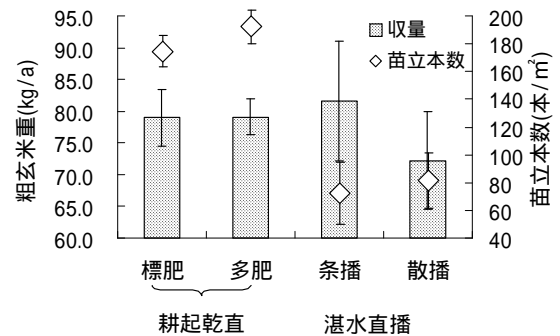


図3 「北陸193号」の直播における収量と苗立本数

注1) 調査年次: 耕起乾直: 2009~2010年, 湛水直播: 2010年
 調査場所: 鳥取農試
 注2) 施肥: Nkg/10aで以下のとおり
 耕起乾直: 標肥: 3.2-7-3-3-3-3, 多肥: 3.2-7-6-5-5-5
 湛水直播: 堆肥3t/10a, 7-3-3-3-3
 (基肥-(入水後(乾直))-分けつ期-幼形期-幼形期の10日後-出穂期)
 注3) 湛水直播は鉄コーティング処理した種子を各区同量で播種
 ほ場1; 播種量: 乾籾4.6kg/10a, 播種日: 5/21
 ほ場2; 播種量: 乾籾3.4kg/10a, 播種日: 5/18
 注4) 図中の垂線は標準誤差(乾直: n=4, 湛直: n=3)

・成熟期30日後まで、脱粒少なく
 ほ場での乾燥が可能

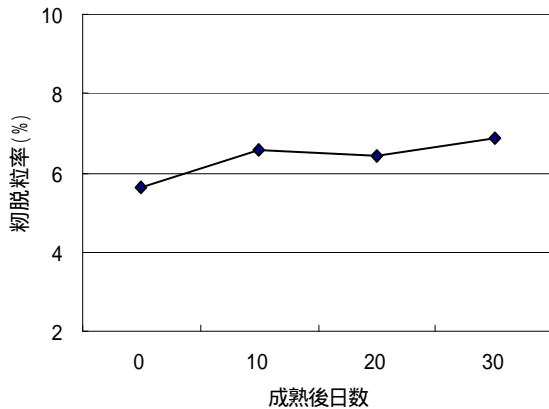


図2 成熟後の脱粒の推移

注1) 調査年次: 2009~2010年, 農業試験場
 注2) ほ場内立毛状態の穂を調査

[活用上の注意・留意点]

- 1 堆肥を3t程度利用し、施肥はNkg/10aで、7-3-3-3-3
 (基肥 - 分けつ肥 - 穂肥 - 穂肥 - 出穂期肥)
 穂肥 は幼穂1mm時、穂肥 は の10日後施用
- 2 基肥一発肥料でも同程度の収量確保可能
 (Nkg/10aで、堆肥3t施用: 約5割減、堆肥無し: 約2割減)
- 3 県内平坦地に適する(山間地は試験中)
- 4 深水栽培(水深5cm以上)で有効茎歩合を高める。
- 5 種子の休眠が深い 50 5日間の加温乾燥で休眠打破。

問い合わせ先 : 鳥取県農林総合研究所 農業試験場 作物研究室
 電話 : 0857-53-0721